

# 平成26年度 村上市国語部 活動報告

部長 安部 修平

## 1 研究主題

児童の意欲を引き出す指導のあり方

## 2 研究の概要

児童の意欲を引き出す指導のあり方の研究を深めるにあたり、「単元を貫く言語活動」を授業に位置付けて指導していくことにした。具体的方策を探るために授業研究を行ったり、「新潟市マイスター」から指導を受けたりした。そこで、児童の意欲をいかに引き出すのかについて協議・検討を行ない、各自が実際の指導で生かすことができるようにした。

## 3 研究の実際

- 5月 1日 代表部員会 事業計画立案
- 5月 9日 第1回部会 事業計画説明会
- 8月19日 第2回部会 師範授業・講演会（保内小学校）  
内容「国語科における単元を貫く言語活動」  
指導者 山田 綾子 様（「新潟市マイスター」新潟市立上所小学校 教諭）
- 11月 5日 第3回部会 指導案検討会
- 11月19日 代表部員会 指導案検討会
- 12月 2日 第4回部会  
授業公開（保内小学校）・協議会  
6学年国語科 単元名「本は友達」  
教材名「森へ」  
授業者 高橋 真徳 教諭（保内小学校）  
指導者 山田 綾子 様（「新潟市マイスター」新潟市立上所小学校 教諭）

児童の意欲を引き出す指導のあり方として、「単元を貫く言語活動」を授業に位置付けていくために、まず「単元を貫く言語活動」とはどのようなものなのかについて研修した。そこで、師範授業を受けたり講演を聴いたりすることによって、部内における共通理解を図った。それを受けてさらに、高橋真徳教諭（保内小学校）による公開授業に向けた指導案検討会、また、授業後の協議会や指導者からの指導等を通して「単元を貫く言語活動」について理解を深めた。

## 4 成果と課題

- 指導案検討会や師範授業での協議、そして実際の授業の様子を見ることで「単元を貫く言語活動」について理解を深めることができた。
- 授業の導入部で成果物（ポスター、パンフレット等）を児童に見せ、単元の目的を明確にさせて「単元を貫く言語活動」を設定することは、児童の意欲を引き出すことにおいて有効である。
- 単元の目的を達成するために、どのような力や表現の仕方が必要なのかを児童にその都度理解させることが重要である。また、理解することができたのかを振り返る活動も重要である。
- 単元の目的を児童全体に明確にさせることはできるが、その目的を達成させるための意欲や身につけておくべき学習の基礎・基本に差があることから、児童一人一人の学力を十分に把握して指導する必要がある。